

社会資本整備重点計画（平成15年10月閣議決定）

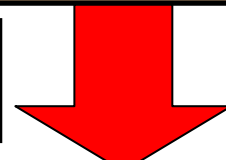
- ・国家的な観点から、社会資本整備を重点的、効率的かつ効果的に推進
- ・アウトカム指標による政策評価を導入し、成果重視の施策へ転換

第1章

8 社会資本の整備における新たな国と地方の関係の構築

個性ある地域の発展を目指し、国と地方公共団体との円滑な意思疎通、共通認識の醸成を図りつつ、各地方支分部局による社会資本の整備に係る重点目標や事業等に関する検討・整理をもとに、地方ブロックの社会資本の重点整備の方針をとりまとめ、国と地方の役割分担を明確化しつつ、社会資本の整備を重点的、効果的かつ効率的に推進する。

閣議決定ではないが、重点計画の
上記記述に基づき、国土交通省が作成



地方ブロックの社会資本の重点整備方針【平成16年6月公表】

地方支分部局が中心となり、各地方ブロック毎に都道府県、政令市と協議し、経済界、有識者、NPO等の意見も聞きながら、地方における課題等について共通認識を醸成



各地方ブロックの中長期的な社会資本整備の目標と必要な施策等
重点的に取り組むべき事項をとりまとめ

地方ブロックの重点整備方針

各地方ブロックの現状と課題

各地方ブロックの目指すべき将来の姿
10～15(20)年後を想定

各地方ブロックにおける重点事項
計画期間(5箇年)を想定

各地方ブロックの重点事項（抜粋） その1

各地方ブロック毎に、地域特性や社会資本整備の進展に差異があり、取り組むべき重点事項が異なる。

< 北海道ブロック >

北国の安全でゆとりある快適な地域社会

広大な国土と雄大な自然を活かした観光大陸

安全な食料の安定的供給を支える食料基地

< 東北ブロック > ～「強く美しい東北」を目指して～

「縦」、「横」のネットワークによる
広域的な交流・連携の推進

雪に強く、安全で快適な
地域づくり

「コンパクトシティ」の推進

東北らしい自然環境との共生

< 関東ブロック >

我が国及び世界の経済を
リードする首都圏

誰もが安全・快適に暮らせる
地域の実現

我が国の玄関口として、魅力ある
観光資源の活用創造

北関東・西関東地域における自立
と交流・連携の促進

< 北陸ブロック > ～外との交流・内なる連携～

豊かな自然と個性的で特色ある産業や文化

日本列島の扇の要に位置する
環日本海交流の玄関

世界有数の豪雪、急峻な地形、
脆弱な地質などの厳しい自然

< 中部ブロック > ～日本の「まんなか」である地理的優位性を活かし、暮らし・産業が調和した、世界に誇れる中部の創造～

国土の中央に位置し、国内外の交流の要所

拠点都市が分散しており、ゆとりのある生活が可能

日本の産業を牽引する優れた産業の構造

各地方ブロックの重点事項（抜粋） その2

< 近畿ブロック >

にぎわいあふれる水都の再生、
民の創意を活かした産業の再生

阪神・淡路大震災の教訓、
東南海・南海地震への備え

我が国随一の歴史的文化的
資産の保全・活用

琵琶湖から大阪湾ベイエリア
に至る水と緑のネットワーク

< 中国ブロック >

自然環境（日本海、瀬戸内海沿岸部、
中国山地等の自然環境が豊富）

歴史、文化（神楽に代表される無形文化財
や街並み・景観が豊富）

素材型、加工組立型工業（古くから
発達・蓄積された技術、人材が豊富）

< 四国ブロック >

南海地震対策の強力な推進

美しい海と山を活かした交流拡大

遍路文化など癒しの国にふさわしい社会
資本整備（四国スタンダード）

< 九州ブロック >

自然災害が頻発

適度に分散する都市と多自然
居住地域の連携が可能

東西間格差や離島など
地域間格差の是正が必要

アジアに最も近くアジアの一員と
しての国際競争力の強化が必要

< 沖縄ブロック >

アジアと太平洋諸国に近接

各地域が独自の個性的な風土や文化を有する

世界に誇れる美しい自然と景観を有する

各地方ブロックの代表的な指標

各地方の重点事項の成果を確認するためには、全国统一ではない、各地方別の(重点事項に合った)指標が必要。

- : 地方の特色、特徴を示す指標
- : 重点計画の指標を準用

< 東北ブロック > ~「強く美しい東北」を目指して~

「縦」、「横」のネットワークによる
広域的な交流・連携の推進

- 高速道路まで1時間で行ける人口の割合
【97% (H14) → 99% (H19)】

雪に強く、安全で快適な
地域づくり

- 冬期歩行空間確保率
【77% (H14) → 82% (H19)】

「コンパクトシティ」の推進

- 区画整理により良好な宅地等
が形成される面積
【630ha (H14) → 1,015ha (H19)】

東北らしい自然環境との共生

- カヌー等の安全、快適な利用のための
施設整備を行っている河川延長の割合
【7% (H14) → 11% (H19)】

< 近畿ブロック >

にぎわいあふれる水都の再生、
民の創意を活かした産業の再生

- 近畿の訪日外国人旅行者数
【1,708千人 (H13)
→ 3,000千人 (H19)】

阪神・淡路大震災の教訓、
東南海・南海地震への備え

- 紀伊半島沿岸部(和歌山県
内)における東南海・南海地震
に対する波にも安心な代替道路
確保率
【29% (H14) → 49% (H19)】

我が国随一の歴史的文化資産の保
全・活用

- 京都、奈良への日帰り時間圏域人口
【2,700万人 (H14) → 3,670万人 (H19)】

琵琶湖から大阪湾ベイエリア
に至る水と緑のネットワーク

- 琵琶湖の水質保全指標
(流入負荷量)
COD : 【44t/日 (H14)
→ 39t/日 (H19)】

< 九州ブロック >

自然災害が頻発

- 浸水を解消すべき面積
【約80,000ha (H14)
→ 約74,000ha (H19)】

適度に分散する都市と多自然居住地域
の連携が可能

- 第2次救急医療施設へアクセス時間が
短縮する市町村の人口(3分以上短縮)
【新たに約15万人 (H19) に効果】

東西間格差や離島など
地域間格差の是正が必要

- 基幹都市からの3時間交流可能人口
【約7,900万人 (H14) → 約8,000万人 (H19)】

アジアに最も近くアジアの一員と
しての国際競争力の強化が必要

- 規格の高い道路のIC等から10分以内
で連絡可能な主要な空港港湾の割合
【47% (H14) → 57% (H19)】

各種指標については、地方ブロックの重点整備方針を策定するにあたって、各地方整備局が検討し作成したもの